

院外処方箋取り扱い手引（保険薬局向け）第2版

2014年4月1日

葛飾赤十字産院 薬剤部

当院は平成25年6月1日（土）より全面的に院外処方箋に移行いたしました。

（1）基本情報

1. 産婦人科外来・小児科外来の処方を手書き院外処方箋で発行します。
処方箋自筆1枚目を発行しますので、改ざんなどの疑義が生じた時は当院までお問い合わせください。
処方オーダーリングの予定はありません。
2. 院外処方箋発行時間
原則として診療時間内（平日及び土曜日 9:00～17:30）

（2）当院採用医薬品

1. 採用医薬品・院外処方専用医薬品一覧、調剤内規（保険薬局用）は、当院ホームページ上に公開しています。調剤内規はあくまで参考程度として掲載しますので、調剤方法で変更になる部分がありましたら患者さんへの説明をお願いいたします。
2. 麻薬、生物由来製品、抗がん剤の外来処方はありません。
疑義が生じたときは当院までお問合せください。
3. 保険適応外医薬品のうち、処方箋医薬品であるトリキュラー28、オーソ M・21 錠、プラノバル配合錠（自費分）、タミフル予防投薬、バファリン 81mg 錠（自費分）等は、院外処方箋の備考欄に「保険適応外」または「自費」と明記しますので、保険薬局での調剤をお願いいたします。
4. 一般名処方の予定はありません。
5. 原則として、処方箋の記載どおりの当院採用医薬品で調剤してください。

（3）処方の記載

1. 小児科の散薬は基本的に“**分量**”で記載されています。
処方箋受領時に患児の体重、年齢を確認し、処方量の鑑査をお願いいたします。
ただし以下のものは製剂量記載となります。

整腸剤 : レベニン、ビオスリー、ビオフェルミン

下痢止 : アドソルビン、タンナルビン

参考図書：「新小児薬用量 改訂第6版」 編集 五十嵐 隆 他 診断と治療社

（4）服薬指導

1. 処方箋に記載されているコメントは全て薬袋に転記してください。
例 解熱剤「38.5℃以上で使用 6～8時間あける」
「①②の薬は本日から使用 ③は前回の薬が終わってから」
2. 小児科では便宜上「食後」として処方しますが、乳幼児の患者さんでは「食前」「ミルクの前」でも

かまいません。

- 授乳婦に薬剤が処方されたときは、なるべく授乳後に服用すると母乳への影響は少ないとご説明しています。

(授乳に関する情報は 国立成育医療研究センター内 “妊娠と薬情報センター” ホームページに掲載)

- メーカー提供の患者向け服薬指導書を添付しています。詳しくは採用医薬品一覧をご参照ください。

(5) 疑義照会の院内体制について

1. 疑義照会対応時間

原則として平日及び土曜日 9:00~17:30

- 内容によって以下のように対応します。変更内容はお薬手帳に記載してください。

- ① 医師の責任によるもの(重複・相互作用・用法・用量などの処方内容の確認、変更・追加、処方内容が判読しづらいとき等)

病院代表 03-3693-5211 から 産婦人科外来医師
小児科外来医師

- ② 保険(保険番号、公費負担等)に関すること

病院代表 03-3693-5211 から 産婦人科外来受付
小児科外来受付

- ③ 調剤に関すること

病院代表 03-3693-5211 から 薬剤部

- ④ 疑義照会による処方内容の変更等を当院に連絡する場合には、下記まで FAX してください。
様式は問いません。

薬剤部直通 FAX 03-3693-8463

(6) 調剤過誤について

1. 保険薬局で調剤事故が発生した場合は、速やかに保険薬局から当院主治医まで電話連絡をお願いします。
同時に日本薬剤師会『調剤事故報告書』必要事項を記載し、処方箋と合わせて薬剤部まで FAX してください。

電話 03-3693-5211 (病院代表)

FAX 03-3693-8463 (薬剤部直通)

(7) 薬剤の紛失、液剤のこぼしなどによる薬剤の再交付

1. 保険薬局から処方医に了解をとった後、調剤してください。2 回目の調剤は全額、患者さんの自己負担になることをお伝えください。

2013.4.25 作成

2013.5.16 第1回改訂

2014.4.1 第2回改訂